若山牧水

幾山河こえさりゆかば淋しさの
果てなん国ぞ今日も旅ゆく

幾山河こえさりゆかば淋しさの
果てなん国ぞ今日も旅ゆく

【作者】若山牧水（一八八五～一九二八年）・明治-昭和時代前期の歌人。尾上柴舟（おのえ-さいしゅう）に師事。平明流麗な歌風で、旅と酒の歌人として知られる。紀行文や随筆もおおい。明治四十三年から歌誌「創作」を主宰。妻喜志子（きしこ）も歌人。昭和三年九月十七日死去。四十四歳。宮崎県出身。早大卒。本名は繁。歌集に「海の声」「別離」「死か芸術か」など。

【格言など】白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒は静かに飲むべかりけり